




チュラロンコーン大学とのジョイントディグリープログラム

東京医科歯科大学は、教育理念の一つである「国際性豊かな医療人の育成」を推進するとともに、国際競争力を強化するため本学と長年にわたり交流のあるチュラロンコーン大学とのジョイントディグリー(JD)プログラムを開設しました。JDプログラムとは、連携する大学間で開設された単一の共同の教育プログラムを学生が修了した際に、当該の連携大学が共同で単一の学位を授与するものです。

2015年11月26日にはJDプログラム開設に関する協定の調印式が本学にて行われ、我が国で初めて設置が認められたJDプログラムとなりました。この調印式には本学吉澤学長、チュラロンコーン大学スーチット歯学部長をはじめ、来賓としてお招きした文部科学省高等教育局常磐局長、在東京タイ王国大使館タンサクン公使、外務省東南アジア第一課宮本課長、大山前本学学長のご臨席を賜りました。

この協定の締結に基づき、2016年8月には3名の学生が本プログラムに入学し、5年間の歯科矯正学分野の博士課程が開始されました。



 ジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定 合同調印式 於：東京医科歯科大学 平成27年11月26日



森山歯学部長と JDP 第1期生

Petchara Techakumpuch 教授に本学の名誉博士号授与

2016年2月11日、チュラロンコーン大学のペチャラ教授(Prof. Petchara Techakumpuch)に対し、これまでの功績と本学との学術交流への多大なるご尽力を称え、本学から名誉博士号が授与されました。ペチャラ教授は、本学が1991年にチュラロンコーン大学歯学部との初の学術交流協定を締結した際の歯学部長であり、ペチャラ教授の国際交流への深い理解や情熱によって、その後の両大学の学術交流、学生交流が歯学部間のみならず、医学部医学科間、保健衛生学科間へと広がり、連携が深まったと言っても過言ではありません。

授与式はチュラロンコーン大学本講堂にて行われ、田中雄二郎本学理事・副学長から名誉博士号がペチャラ教授に授与されました。当日は、ピロム チュラロンコーン大学学長、スチポン同医学部長、スーチット歯学部長のほか、70名近くにのぼる関係者、本学博士課程を修了したタイの元留学生等がお祝いに駆けつけ、式典後は、祝賀会が行われ両大学の更なる交流が深められました。



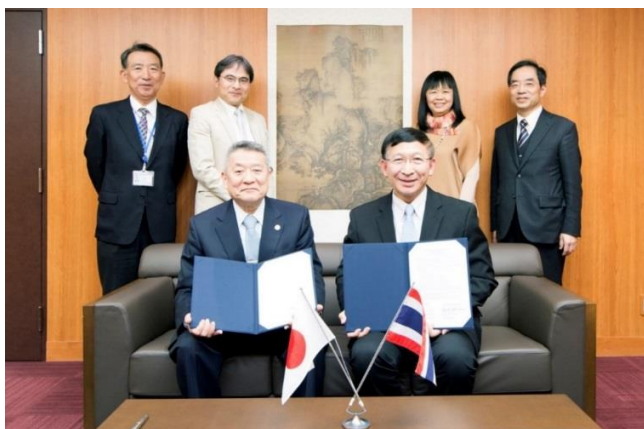
チュラロンコーン大学歯学部と学術交流協定署名式

2016年2月11日、チュラロンコーン大学のスーチット歯学部長、本学の森山啓司歯学部長との間で両歯学部間の学術・学生交流協定書の署名式が行われました。1991年からはじまった両大学の交流は25年以上におよび、本学はチュラロンコーン大学から多くの留学生を受け入れてきました。現在、チュラロンコーン大学では約40名の本学博士号取得者が教員として活躍しています。今回の協定書の署名は、今まで締結されていた学術・学生交流協定の延長の為のものであり、両大学の歯学部間の学術・学生交流がますます盛んになることが期待されています。



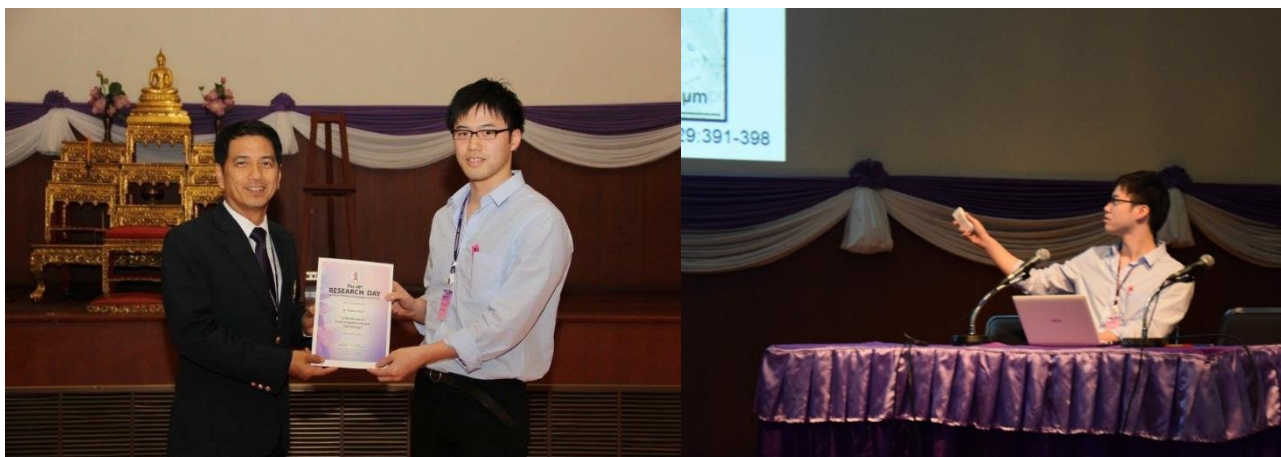
マヒドン大学と大学間学術交流協定署名式

2016年2月12日に本学田中理事・副学長と三宅教授がマヒドン大学シリラートキャンパスを訪問し、サンサニー教授と両大学間のより活発な交流を目指し大学間協定の締結について話し合いました。これに基づき同月26日には、来日中のマヒドン大学ウドム学長と吉澤学長との間で、本学とマヒドン大学の大学間学術交流協定が本学にて締結されました。これは、タイの大学との初めての大学間協定となり、本学とマヒドン大学の複数の学部、研究所の交流が盛んになることが期待されています。



チュラロンコーン大学歯学部のリサーチデイに参加

2016年1月27日、チュラロンコーン大学歯学部で行われたリサーチデイに井関祥子教授（分子発生学分野）、森田圭一助教（顎口腔外科学分野）、歯学部歯学科5年生の井神優太君、折笠紫音君が参加しました。井関教授は、口演発表の審査委員に、森田助教は、ポスター発表の座長を務めました。学生2人は口演発表を行ない、折笠君が部門賞を獲得しました。



「海外で研究発表をするにあたり多くの先生方にサポートをしていただき、出場した Oral Biology 部門では1位となり賞をいただくことができました。グローバル化が進む現代において、海外で何かをしたという経験は大きく将来に生きてくると思います。今回タイに行った際も、現地の学生や先生方と歯科についてさまざまなことを話し、日本との相違点や今まで知らなかったタイの歯科医療の現状などを知ることができ、本当に多くの刺激を受けました。」（折笠）

チュラロンコーン大学歯学部における学生研修

2016年1月25日から31日まで、歯学部歯学科5年生の井神優太君、折笠紫音君がチュラロンコーン大学での短期海外歯科研修に参加しました。研修中は、上記リサーチデイでの発表の他にチュラロンコーン大学での研修、パクレットの孤児院における歯科健康教育の現場の見学などを行いました。



シーナカリンウィロート大学歯学部における学生研修

2016年3月5日から13日まで、歯学部歯学科4年の三澤英里さん、木村友昌君、同3年の近藤愛里さん、秤屋雅弘君は、シーナカリンウィロート大学歯学部において研修を行いました。研修は、同歯学部の他にシーナカリンウィロート大学のキャンパスのあるナコンヨーク県での住民への歯科健康教育活動にも参加しました。



チュラロンコーン大学保健医療学部での保健衛生学科学生の研修

2016年8月20日から29日までの9日間、保健衛生学科の五反田睦美さん、小野絢音さん、恩知千菜美さん、佐藤和佳菜さん、篠田光甫さんがチュラロンコーン大学保健医療学部での短期海外歯科研修に参加しました。研修では、大学附属病院の研究室を見学したり、大学院の医療生物学の授業に参加したほか、地方にある地域の医療センターでは教員の指導のもと、無料で提供されている地域住民のための健康診断（身体測定、血液検査、尿検査、栄養指導等）の実践に、参加しました。学生たちは、タイの都市部の医療状況が日本と大きく変わらない一方で、農村部の状況は使用する検査器具等に大きな違いがあることを学びました。



グローバル人材育成（英語教育）の調査

2016年2月15日から18日まで、森尾郁子国際交流センター長（歯学教育開発学分野教授）、小野田勝次国際交流センター特任准教授、柴田真希国際交流課職員は、アセアン大学ネットワーク、タイ歯科評議会、チュラロンコーン大学語学センターなどにおいてグローバル人材、英語教育に関する調査を行ないました。今回の調査では、タイでは英語で教育する国際プログラムと自国語であるタイ語で教育する場合とに分けて考えなければならない、英語能力要件についても当然、両者で差があり、自国語プログラム在籍生の英語能力向上については課題を抱えていることがわかりました。



タイ医療コンソーシアムご一行の来学

2016年5月17日、タイ医療コンソーシアム一行（計40名）が東京医科歯科大学を来訪しました。この訪問は本学の学部、大学院の医学カリキュラム、研究、世界大学ランキングの上昇への方策等の大学経営についての情報収集などが目的で行われました。

訪問は、江石医歯学総合研究科長による本学の概要説明から始まり、高田統合教育機構事業推進部門長から卒前教育について、高橋医学部附属病院総合教育研修センター長からは卒後教育について説明がありました。続いて、戸塚保健衛生学研究科長からは保健衛生学研究科の紹介、森田研究担当理事からは本学の研究についての説明がありました。その後、訪問団一行は学長室を表敬訪問し、吉澤学長とプレゼントの交換を行うなど和やかに談笑しました。本学の施設見学では各見学先で活発に質問が飛び交い、本訪問に対する関心の高さが感じられました。



拠点所在地

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11 floor Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University, Henri-
Dunant Road, Bangkok, Thailand

本学内事務局

第1号館西4階 統合国際機構事務部国際交流課総務係

電話 03-5803-4941 E-mail bkk.onoda.isc@tmd.ac.jp

文責：柴田真希

